

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 3 報
千葉県農林水産部
令和2年6月17日

「ふさおとめ」は穂肥の時期です

「コシヒカリ」は生育に応じて、穂肥の時期・量の調整を [生育概況]

関東甲信地方の梅雨入りは6月11日頃ですが、第1～3半旬の気温は高く推移し、生育は早まっています。「ふさおとめ」の幼穂形成期は平年と比較して2日程度早く、「ふさこがね」は3日程度早くなっています。また、「コシヒカリ」は6月21日頃からとなる見込みです。

「ふさおとめ」は既に穂肥の時期に入っており、その他の品種も、穂肥の時期となりますが、「コシヒカリ」は草丈が長く、茎数が多いほ場がありますので、穂肥の施用時期・量に注意しましょう。

表1 品種別の生育状況（6月15日現在）

品種	植付時期	平年比 ^{※1}			
		生育進度 ^{※2}	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日	並	並	やや少	並
ふさこがね	4月20日	やや早	並	並	並
コシヒカリ	4月20日	並	やや長	並	やや淡
	5月1日	やや早	長	やや多	並
粒すけ	4月20日	並	並	並	並

※1 平年比は過去10か年（2010～2019年）の平均値との比較。

ただし、粒すけは過去5年（2015～2019年）のデータとの比較。

※2 幼穂形成期の実績値および予測値により判断

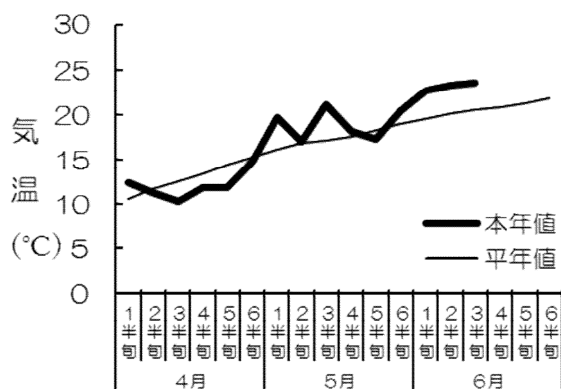


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

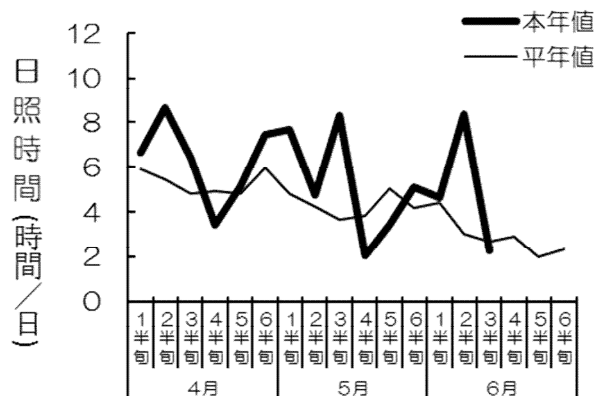


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

[これからの管理のポイント]

■生育の進みに応じた適期作業の実施

「ふさおとめ」は既に穂肥の時期に入っており、「ふさこがね」もまもなく穂肥の時期を迎えますので、早めの準備が必要です。「コシヒカリ」、「粒すけ」はこれから幼穂形成期となりますので、穂肥を実施する際は、必ず幼穂長を確認し、施用の時期・量を判断しましょう。

○穂肥の実施

穂肥の施用時期が早いと倒伏や粒数過剰による登熟不良や玄米外観品質低下を招くおそれがあります。品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安（表2）を参考に、穂肥を施用しましょう。

表2 品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
ふさおとめ	4月20日	6月15日	6月13日	6月13日	6月13日	幼穂形成期から1週間以内 【幼穂長 1mm~1cm】
ふさこがね	4月20日	6月16日	6月16日	6月15日	6月15日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長 1cm】
コシヒカリ	4月20日	6月25日	6月21日	6月21日	6月21日	幼穂形成期7日後頃~ 15日後頃の間 【幼穂長 1cm~8cm】
	5月1日	6月30日	6月26日	6月25日	6月25日	
粒すけ	4月20日	6月26日	6月22日	6月21日	6月21日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長 1cm】
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日 頃	6月25日頃~				幼穂形成期前5日頃から 幼穂形成期後5日頃 (ただし、最高分けつ期に葉 色が低下した場合は、すぐに 追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日 頃	7月2日頃~				

※幼穂形成期は、4月20日植付の「ふさおとめ」「ふさこがね」「粒すけ」は水稻作柄安定対策調査結果から。「コシヒカリ」は、生育ステージ予測システム（令和元年度千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。ただし、飼料用米は、水稻作柄安定対策調査結果等を参考に予測。

各品種の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各3kg（房総南部の粘質土では、窒素成分を「ふさおとめ」は1~2kg、「ふさこがね」は2~3kg、「コシヒカリ」は2kg。「粒すけ」は粘質土で2kg）です。

幼穂形成期の目標生育量（表3）を参考に、生育量が目標を超えている場合は、施用適期の範囲内で追肥時期を遅らせ、減肥しましょう。

「コシヒカリ」は草丈が長めに推移しており、茎数が多いほ場もあります。近年、秋の長雨・台風により、倒伏するほ場も多くみられますので、幼穂形成期の目標生育量（表4）を参考に、施肥量を調整しましょう。

なお、「飼料用米多収品種（専用品種）」は、窒素を単肥で3kgが目安となります。

表3 幼穂形成期の目標生育量

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)			葉色 (カラー スケール値)
		砂質土	壤質土	粘質土	
ふさおとめ	55 以下	570~620 (31~34 本)		520~570 (29~31 本)	4.0
ふさこがね	60~65 以下	450~500(25~27 本)			5.0
コシヒカリ	70 以下	430~560(23~30 本)			3.5~4.0
粒すけ	65 以下	570 (31 本)	530 (29 本)		4.5

※茎数の () 内は 30cm×18cm で植付された時の 1 株平均茎数

表4 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD 値) × 茎数 (m ² 当り)	カラースケール値 (※)			草丈 (cm)	予測される 生育・収量	対策		
	3.5	4	4.5			穂肥 加減	穂肥 時期	倒伏 軽減剤
16,000 以下	560 以下	490 以下	440 以下	70cm 未満	籾数が不足し、 やや減収 目標どおりの生 育が期待 籾数確保のため 穂肥は必要 稈長が伸び、 倒伏が心配	増肥、または時期を 2~3 日早める。		
16,000 ~ 20,000	560 ~ 700	490 ~ 600	440 ~ 550	70~ 80cm		標準量	標準	×
20,000 ~ 27,000	—	600 以上	550 以上	75cm 未満	籾数過剰とな り、乳白米の 発生が心配 稈長が伸び、 倒伏が心配	減肥 (窒素施用量 1~2kg/10a) し て時期を遅らせる か、または無施用。		
				75~ 82cm		×	×	必要

(※) カラースケール値とおおよその茎数 (m²当り) の対応は、SPAD 値とカラースケール値との換算式に基づき、目安として示した。

■病害虫・雑草防除

農薬の使用に当たっては、収穫前使用基準等の登録内容を良く確認して、適期に防除しましょう。

○イネクロカメムシ

イネクロカメムシの被害は、生育初期では葉の黄白色斑点、葉先枯れ、株の矮小、心枯茎の発生、幼穂形成期以降では出すくみ穂、白穂、不稔粒、屑米が発生します。株元に成虫の発生が多い場合には、薬剤防除をします。

(防除薬剤例：スタークル/アルバリン粒剤、10aあたり3kg、収穫7日前まで3回以内、または、エルサン粉剤2、10aあたり4kg、収穫7日前まで2回以内)

○斑点米カメムシ類 (畦畔雑草の草刈り)

畦畔雑草は斑点米カメムシ類の生息場所となり、出穂前後の草刈りは斑点米カメムシ類をほ場の中に追い込みますので、出穂2週間前までに畦畔雑草を刈取ります。

○ナガエツルノゲイトウ（草刈り時の拡散防止）

侵略的外来植物の「ナガエツルノゲイトウ」が陸生化し、印旛沼流域等の水田や畦畔に広がっています。茎や節の断片は、容易に萌芽・再生し、水路へ落下すると水系を通じて拡散する恐れがあるため、草刈り時には水路に落下しないように注意してください。また、畦畔伝いの拡散を防ぐため、発生の外周部では非選択性除草剤を散布して防除しましょう。

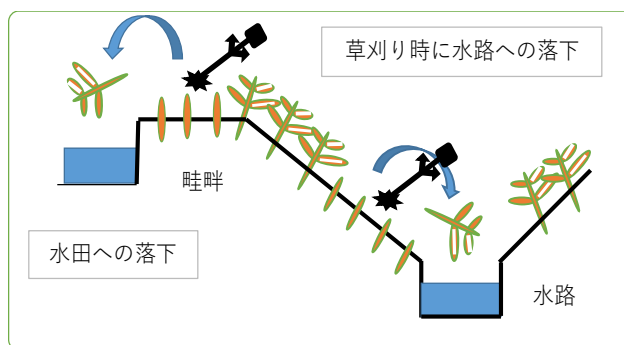


図3 畦畔での草刈り作業



写真1 畦畔に繁茂した様子



写真2 草姿

○イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田で発生したイネばか苗病の株を放置すると、胞子が飛び、周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、優良な種子の生産に支障をきたします。本病の発生が見られたら、採種ほ場の出穂前までに罹病株ごと抜き取り、田んぼから離して埋却処理するか、焼却するなどの対応について、ご協力をお願いします。



写真3 イネばか苗病

■水管理

中干し後は間断かんがいを行い、その後、幼穂を確認したら入水を開始し、出穂3週間前から出穂2週間後までは湛水管理（※）を行います。

農業用水の利用に当たっては、かけ流しをせず、漏水防止対策を徹底して、日頃から大切に使いましょう

（※）自然由来のカドミウムを抑制するために必要な技術です。

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、6月29日に発行予定です。